

## 活動状況報告（1月）

学生留学コース 5期生 上野 瞭子

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ致します。

私は、フランス・パリの凱旋門で、新年を明かしました。日本では、毎年、家で新年を明かしますが、今年は、外でした。パンデミックの影響のせいか、例年のような派手な演出はありませんでしたが、凱旋門から打ち上がる花火は、とても輝かしかったです。

そして、新年が明けたかと思うと、1月3日には、新学期が始まりました。日本では、正月休暇にゆっくりと過ごしますが、フランスは、クリスマス休暇がとても長いため、日本のような正月休暇はありません。日本で長年過ごした私としては、とても忙しく感じました。

そして、新学期によって受講する講義も一新されます。「北海道経済の活性化を実現するため、海外進出をサポートできる弁護士を目指す」という目標のために、必修講義以外に、商法や会社法、特許法、EUの法制度やその実務法などの講義を受講しています。特に、フランス語の言語のクラス(FLE)は、ひとつ上のクラスにあがることができ、前学期からの成長を感じました。基本は、留学生と英語でコミュニケーションをとりますが、今では、ところどころで、フランス語も交えています。

また、フランスには、1月にガレット・デ・ロワを食べる習慣があります。ガレット・デ・ロワとは、アーモンドクリームが入ったホールケーキくらいの大きさのパイをいい、中には、フェーブ(fève)と呼ばれる陶製の小さな人形が入っていますが、昔は、ソラマメだったそうです。このガレットを数人で食べる際は、その中で1番若い人が目隠しをされ、その若い人に切り分けたガレットを誰に配るか指名させます。そして、配られたガレットの中にフェーブが入っていた人が、その日の王様・女王様であり、1年間幸せであるといい伝えられています。

私は、このガレット・デ・ロワの行事を、留学生の友達と一緒に参加しました。ガレットは、パイはサクサクで、アーモンドクリームはしっとりとして、とても美味しかったです。そして、なんと、私が食べたパイの中にフェーブが入っていました。フェーブが当たったおかげで、残りの留学も成功に終わるようになります。美味しいパイとフェーブが当たるかの緊張感がとても興味深く、日本に帰国してもこのような伝統に続けて参加したいと思いました。

レンヌ政治学院での生活も折り返し地点に来ました。残りの学校生活も、悔いのないよう一生懸命に取り組もうと思いますので、応援よろしくお願ひいたします。

Bonne année!

